

議員と話す会報告書

開 催 日 時	令和7年5月14日（水） 午後7時～午後8時20分		
開 催 場 所	松阪公民館 講座室1		
班 名	1 班		
出 席 議 員	代表者 <u>海住 恒幸</u> ① <u>森 遙香</u> ② <u>野呂 一平</u> ③ <u>殿村 峰代</u> ④ <u>米倉 芳周</u> ⑤ <u>坂口 秀夫</u> ⑥ <u>山本 芳敬</u>		
	司会進行者	殿村 峰代	
	報 告 者	米倉 芳周	
	記 録 者	森 遙香 米倉 芳周	
参 加 人 数	8 名		
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。		
代表者の所感	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 中島 清晴 様

令和 7 年 5 月 2 1 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

1 班

代表者 海住 恒幸

【開催形式】

・参加者より、意見交換のテーマを提案していただき、以下のテーマ項目にて2班に分け ワークショップ形式にて行う。

【テーマ項目】

A グループ

- ・防災について
- ・医療について

B グループ

- ・まちづくりについて
- ・公共交通について
- ・松阪市市議会について

【班の構成】

◎A グループ：殿村議員、米倉議員

ファシリテーター：野呂議員 記録：米倉議員

市民参加：5名（男性3名・女性2名）

◎B グループ：山本議員、坂口議員

ファシリテーター&記録：森議員

市民参加：3名（男性1名・女性2名）

1. 意見交換

【主な意見等】

■A グループ

①防災について

・南海トラフ地震の発生率が80%という高確率の中で、地域（第三小学校区域）では、定期的に避難訓練を実施しているが、有事の際、どれだけの方が、即座に避難するのかは、疑問である。災害への危機意識が低いと感じるときがある。災害に対しての意識向上を図る必要があるのでは。

・特に豪雨対策（線状降水帯時）の必要性を感じる。百々川等の災害が記憶に新しいが、行政には、想定される災害への事前対策を講じることを期待する。

・五主地区の防災避難タワーを見学してきて思ったことだが、もう少し簡素な建物であっても良いのではと思う。（建設費を考慮して）

・防災は、「自分の命は自分で守る」が基本であると思う。自分で動ける限り、その思いが大切であると思う。

②医療について

・高額医療制度の見直しについて、現在、今国会にて凍結されたが、家族がこの制度を利用しているので、身に染みて感じている。重要なセーフティーネットであり、市からも国へ意見してほしい。

・市民病院が現在、感染症対策のためか、入院患者との面会を禁止している。あらゆる面会も遮断している現状は、一種異様である。改善を求める。

・市は窓口サービスの改善（おくやみコーナー、書かない窓口、ちゃちゃと手続き等）を行っているが、高齢者にとってはまだまだ負担がある。

一例として、おくやみコーナーなどは、一度に申請できるが、申請ごとに各窓口まで行かないといけないので負担を感じる。地区の市民センターが利用できる则有難い。

（テーマ項目外）

・松阪市全域を展望する場所がないため、構造上の問題はあるかも知れないが、市民病院の屋上を開放して、展望台の利用ができないものか。

観光にも寄与すると思う。

→議員：案としては理解するが、建物の構造上難しい点もあり、現状において、駐車場の問題（駐車スペースの不足）があり、患者以外の駐車がネックとなってくるため、不可能であると思われる。

■B グループ

①議会の活性化について

・高校、大学に議員が出向いてはどうか。若い人達が市政に参加する一つのきっかけになるような試みを実施する。

・高校、大学等の学生へ向けての議会としてのPRの実施。

・議会になかなか、声が届かない層に対してのアプローチの工夫が必要ではないか。例えば、不登校や発達障がいの方が家族にいらっしゃる方達等へ。

②公共交通について

（タクシーの利用案）

・高齢者や難病の方のタクシー利用の無償化政策案。

- ・タクシー利用で、月額 1000 円での何度もタクシー利用できる、サブスク案等。

(問題・課題点)

- ・旧道路線及び、近鉄道路（県道 7 5 6 号線）沿いに、バス停留所がない。
- ・松阪駅発着の特急（近鉄・JR）の便数が少ない。
- ・バス路線がない地域が多くある。（公共交通の空白地域）

③まちづくりについて

（若者が集うまちづくり、「住んで良かった松阪市」について、高齢者の目線で）

- ・県の政策で、津市から南地域は、切り捨てられているのではと感じることがある。

- ・松阪駅を利用していた 6000 人の学生はどこに行ってしまったのか。

→**議員**：駅西開発の活性化について協議が始まってくるのでご期待いただきたい。

- ・後世に負担を残す形での箱物を作ることに懸念がある。

→**議員**：PFI 方式（公共施設等の建設、維持管理、運営を包括的に民間企業の資金とノウハウを活用する公共事業の手法）で行うため、そこに注目いただきたい。

- ・雨天等でも安心して子どもたちが、お金使わず、集まれる第三の居場所づくりを願う。子どもたちに「どんな場所があれば良いか」アンケートをとってみるのはいかがでしょうか。

- ・大手銀行の支店等（駅前周辺）が撤退し、昼食難民（平日のランチ場所がない）が発生している。まちに人の流れがなくなり、衰退、荒廃の感がある。

- ・ベルタウンやまちなか空家にも企業誘致（出店やイノベーション）を進めるべきでは。

2. 「議員と話す会」を終えての所感

今回の「議員と話す会」は、市議会としては、初めての試みであった。

1 班は、市民 8 名の参加があり、その中で、当日市民より提案のあったテーマ項目別に 2 班にわかれ、それぞれ意見交換がなされた。

日頃感じていること、行政に伝えたいこと、地域の課題、行政に期待することなど、活発な発言あった。

市民からの各意見等の集約はできたものの、班構成が、従来の常任委員会単位構成ではなく、時間的な制約も考慮し、ある意味、ランダムに決定された経緯のためか、事実上、会の進め方は、班内の議員に一任される形となり、会の趣旨や目的が十分に共有されないまま本番を迎えたことで、議論や調整等の準備不足が露呈し、反省すべき点の多く残る結果となった。

この度の反省を踏まえ、今後は、「何のために、だれのために、この会を開催するのか」という目的を明確にし、議員だけでなく、参加者である市民にも事前に共有した上で臨むべきと感じた。

目的が明確であれば、市民も意見を的確に伝えることができ、議論も建設的なものになると考える。また、最も大切なことは、会で出された意見や提案を今後の市政にどう反映していくのか、そのためのフィードバックの仕組みも構築することが重要であり、単なる「井戸端会議」にとどめず、実際の政策や議会活動にどう繋げていくかが求められるのではと考える。

今回は、初めての試みであったからこそ見えてきた課題も多く、市民と議員がより近い距離で対話できる場を、形式的なものではなく、意義のあるものとして継続していくためにも改善を重ねていくべきと考える。

市民の声を丁寧にすくい上げ、それを議会に反映させることにより、「開かれた議会の実現」に向けた第一歩と考える。

議員と話す会の様子

